

会 議 録

- 1 会議の名称 令和5年度第1回胎内市地域自立支援協議会
- 2 開催日時 令和5年11月7日(火) 午後1時30分～2時50分
- 3 開催場所 胎内市役所2階大会議室
- 4 出席者
協議会委員 17人
皆川恵委員、奥村町子委員、宮本忍委員、池田しのぶ委員、斎藤哲英委員、佐藤行夫委員、村山茂和委員、小野真委員、小菅伸一委員、久保田雅勝委員、斎藤隆一委員、服部恵美委員、羽田健亮委員、中倉智美委員、大平勇二委員、梅津真樹委員、金子千恵委員
欠席委員 3人
久保田育宏委員、中村淳委員、丹後幹彦委員
事務局
福祉介護課長須貝正則、障がい福祉係長錦織貴晴、主任小川拓也
説明のため出席した者
株式会社スピードリサーチ・菫澤晶一
- 5 議題
 - (1) 報告事項
 - ①障がい者差別に関すること
 - ②「第6期胎内市障がい福祉計画、第2期胎内市障がい児福祉計画」の進捗状況について
 - (2) 協議事項
 - ①令和5年度胎内市地域自立支援協議会の年次計画(案)について
 - ②「第4次胎内市障がい者計画、第7期胎内市障がい福祉計画、第3期胎内市障がい児福祉計画」の策定について
 - (3) その他
 - ①第11回胎内市共生アート展について
 - ②下越フォーラムの開催について
- 6 会議録
 - (1) 開会
須貝福祉介護課長
 - (2) 委員長・副委員長の選任
互選により、委員長には池田しのぶ委員、副委員長には佐藤行夫委員を選任
 - (3) 議事
池田委員長： いまほど、委員長に選任されました池田です。先ほど市内ではコロナも終息したとは言えない状態だというふうにお聞きしましたが、けれども、私は敬和学園大学に勤めておりますが、今年度から通常のイベント開催ということになっていて、秋の大きなイベントが色々と続いております。学生はやはり元気でして2週間、3週間と

イベントが続くのですけれども元気ですね。地域の中ではまだ終息していないという事で、学生と地域の方が交流するイベントというのは色々考えながら進めなければいけないのですけれども、それでも随分通常の動きになって参りました。とはいえ最近ここ数日ですけれども学生の祖父が入院したとか私も知人が相次いで入院したなんていう話も聞こえてきております。コロナでもないけれども体調を崩してしまったなんていう話をパラパラとけっこう急激に聞くようになっております。おそらく地域の中でもそんなことが起きているのだと思いますが、皆様も併せまして体に気を付けて注意をしてこの冬を向えて頂きたいなというふうに思いながらお話を聞いていました。皆さまからは円滑な議事進行にご協力をお願いします。それでは、議事を進行させていただきます。議題の(1)報告事項の①障がい者差別に関する事について、事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料1について説明)

池田委員長： ただいま説明のあったことについて、何かご質問はありますか。
(委員) (なし)

池田委員長： 次に、報告事項の②「第6期胎内市障がい福祉計画、第2期胎内市障がい児福祉計画」の進捗状況について、説明をお願いします。

事務局： (資料2について説明)

池田委員長： ただいま説明のあったことについて、何かご質問はありますか。

斎藤隆一委員： 医療的ケア児の支援という事なのですけれども、今年7月にも日報に出ていましたけれども、この広域事務組合でもやろうとしているけれども構想はあるけれどもなかなか難しい、ハードルが高いというそういう記事が確かあったと思いますが、この辺の具体的にいまここにある協議の場の有無とかコーディネーターの配置とかそれはそれで大切な事ですが、実際に受け入れる所をどうするのかというそういうのをぜひ計画の中に入れてもらえればと思いますけれども、2025年まで団塊の世代が全て高齢者に入るといふ、それをピークにして今度は私の一つの考え方なのですけれども、高齢者施設が空いてくるのではないかと、徐々にですね。人口も減ってくるし高齢者も減ってくる。そうした時に高齢者施設の再編というような事も必要になってくるだろうと思うのです。そうした時にその施設にはやはり看護師さん等も常駐したりしている訳ですので、その辺の再編の中に取り入れるというのも視野に入れるべきでないかなとは思いますが如何なものでしょうか。

池田委員長： 事務局から何か回答できる事はありますか。

事務局： 今ほどのお話ですけれども、計画の中に医療的ケア児の支援の施設について入れるべき項目とはなっていないかとは思いますが、ただその方針として整備に向けて動いていくという事は県の方からもきっと示されると思っております。そして圏域の動きでは昨年の自立支援協議会でも少しお話をさせていただ

いたかと思うのですが、新発田広域の方で児については医療的ケアの受け入れが出来るように整備をしていこうという動きがありますが、進捗についてはこちらに届いているものがないので動きがあるというところに留まっております。繰り返しになりますが、計画のところで市が進めて行くべきことについては触れて行きたいとは思っておりますのでよろしくお願い致します。

須貝課長： 私から高齢者施設の今後空きが出た場合の活用についての質問についてお答えします。介護保険の分野にはなりますけれども、胎内市の施設入所者、施設利用率というのは県内、全国的な値から比べても比較的高い状況になっておりまして、いまだ待機者が50数名いるようなそんな状況でございます。ちょうどいま介護保険事業計画についても策定段階、同じタイミングなのですね、におきまして少なくとも今後3年間満床状態で推移するといったような見通しを立てているところでございます。ただ委員がおっしゃるような今後は正に共生型と言われる障がいのある方がいずれ介護に移行しても同じ施設で同じようなサービスを利用できるといったところで介護保険、この中でも制度改正も行われといったところですが、現状なかなかそういった共生型の施設は全国的にも県内でもそうですけれども少ない状況にはございますが、その辺りも今後目指す姿の部分では是非計画にも盛り込みつつ具体的な事については今後の状況を見ながら困る事がないような対応を出来るように努めていきたいという程度で具体的な話が出来ずに申し訳ないですけれども、そのような認識でおりますので今後また具体的な策定にあたってまたご意見を賜りますようよろしくお願い致します。

池田委員長： 他にご意見、要望などございませんでしょうか。

(委員) (なし)

池田委員長： それでは次に、(2)協議事項の①令和5年度胎内市地域自立支援協議会の年次計画(案)について、説明をお願いします。

事務局： (資料3について説明)

池田委員長： ただいま説明のあったことについて、何かご質問はありますか。

(委員) (なし)

池田委員長： それでは、『令和5年度胎内市地域自立支援協議会の年次計画(案)』につきましては、これでよろしいでしょうか。

(委員) (委員了承)

池田委員長： ありがとうございます。次に、協議事項の②「第4次胎内市障がい者計画、第7期胎内市障がい福祉計画、第3期胎内市障がい児福祉計画」の策定について、説明をお願いします。

事務局： (資料4、4-2、4-3、4-4について説明)

池田委員長： ありがとうございます。ただいま説明のあったことについて何か質問はありますか。

村山委員： 質問というよりは今これだけのアンケートを見せていただいた事は大変ご苦労様でした、ありがとうございます。結果も見えて

大変良かったと思います。それで調査結果から見た課題とか問題提起は最後に記載されておりますけれども、にも包括ですが、協議事項として協議はやっているという事が先ほど分かったのですけれども、その構築するための協議をやる訳ですので、是非とも、にも包括の協議事項にはこのアンケートの結果を盛り込んで構築していただければいいのではないかなというふうに思いますので、その辺よろしくお願い致します。以上です。

池田委員長：

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

事務局：

はい、ご意見頂戴しました。ありがとうございます。

池田委員長：

ほかにはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。私から1点質問でもなんでもないのですけれども、有効回収率が722人で先ほどこれは問題だと思うというふうに説明がありましたアンケート結果の12ページ、相談や困りごとについて相談先がない、誰もいない、どこにもない、それは複数回答で3つまでとしても16.6%、722人の内16.6%だと11人位の人数なのですが、アンケートですから無記名で集めているのは分かりつつも、特定可能な人数だしサポートが可能な人数なのかなと思うのです。特定が出来ないのでアンケートで誰が書いたか分からないのですが、だとしてもここにいらっしゃる事業所の皆様とか、こんな人が地域に住んでいらっしゃるということがもし分かっていたら対応が可能な人数なのかなというふうには感じるのですが、この方たちが次のアンケートを取った時にはもっと減るように何か方策が取れるといいのになというふうに思っこのアンケート結果を眺めていました。回答数もう少し上げる、せっかく1,400人位すごく少ないので、顔の見えるような関係の中でやっているの、アンケートの回収ももう少し上がるといいのになあなんていうふうには思っ結果見させていただきました。どんな方法でというのは皆さんすごく知恵を絞ってという事になると思うのですが、私の方からそんな意見をさせていただきます。

事務局：

ありがとうございました。委員長がおっしゃるように誰もいない、どこにもないという方々がこういった数字で見えてきております。私ども障がい福祉サービスを担当している部署としましては、まず一番つながりがあるのは相談支援専門員さん方かなと思っているのですが、一方でそういったサービスを全然利用していない方々もいらっしゃる中で、本当にどういった方がこの回答を寄せたかが分かるよう分からないというか難しいなと思っっていますが、おっしゃっていただいたように少しでもそういった方々が減るようにほかの項目でありましたように、サービスの制度が複雑で分かりにくいとそういった事も寄せられていますから、そういった事を一つ一つ解消できるように努めてまいりたいと思っるのでよろしくお願い致します。それからアンケートの回収率に関してですけれども、今回9月15日までの期限というふうに約2週間ということとさせていただきます。さっき説明しましたけれ

ども今回郵送による回答のほか、Webによる回答も出来るように取り組んだところです。どの程度あるかなというふうに探り探りではあったのですが、回収率は思いのほか伸びず50%ほどになりました。ただ、期間についてなのですが、確かに9月15日までにはしたのですが、その後個別にというかその方々にとってはまだ出せますかというような連絡が何件か入りまして、出来るだけ混ぜたいと思って回収をしまして、実際のところは10月6日まで寄せられたものについて集計をさせていただいたと、それでも50%を超えた程度ではあったのですが、そんな状況でした。私どもとして回収率が上がる方策が何かあれば次回に向けてもまた検討して行きたいと、Webで回答が1つはその策でもあったのですが、また次回に向けては何かしら考えて参りたいと思います。よろしくお願い致します。

池田委員長：

ありがとうございます。あの、最近在宅で閉じ込められているような障害のある方を最近発見したというような話を実は聞いたところなのです。ただし役所の方は重々承知なのかなとは思いますが、まだまだいらっしゃるのだなというところが正直驚きだったり恐怖だったりしております。それは結局は虐待に当たるのではないかなというような恐れもありますので、どんな形ならそういう方たちが見つけられるのかということも本当に普段から様々な事をされているとは思いますが、こういうことはなるべくその関係者で共有をしながら防止に努めていくとかということがやはり必要なのだなと最近また改めて感じたところなんです。ちょっと分かりにくい話で恐縮なのですが、どうぞよろしくお願い致します。すみません、ありがとうございます。ほかに質問ご意見等ありませんでしょうか。

(委員)

(なし)

池田委員長：

ないようですので、それでは、『第4次胎内市障がい者計画、第7期胎内市障がい福祉計画、第3期胎内市障がい児福祉計画の骨子案』につきましては、これでよろしいということをお願い致します。ありがとうございます。次に、議題の(3)その他について、事務局からお願いします。

事務局：

(第11回胎内市共生アート展について、下越フォーラムの開催について、説明)

須貝課長：

私から事業所の動きといったところでですね、決定の段階では決していないのですが、いま市からも要望し事業所からも前向きな検討をといったところで、一つには児童発達支援事業所なんですけれども、市内旧中条町の中心部あたりの中古物件を探しておりまして、それがなかなか適当なものが見つからないといったところで、まだ前に進んでない状況にございますけれども、児童発達支援事業所のほうも今後整備されるよう、なお要望、市からもしていきたいと思っております。

それから、重度医療的ケアにも対応したいいわゆるデイサービス、生活介護事業所のほうがですね、これのほうは前から重ねて繰り返し要望してきたんですけども、新発田市内で具体的に計画を進めているというようなやり取りがございましたが、どうも聞いてみると中古物件で敬和学園大学の近くのあたりを検討しているところで、胎内市民にとっては随分遠い距離だなというところもございしますが、今後はどうしても広域的な視点で事業展開というところも必要になってくる状況ですね、まあどうなるかと、利用状況もどうなるかというところも考えてまいりたいと思いますし、あともう一つには、今年春に NPO 法人こぼんだといったところが立上げを行い、そこでも医療的ケアとか様々な福祉サービス事業をやりたいというところで、これもまったく具体的にはなっていないけれども、様々検討されているといったような状況もございします。様々説明をさせていただきましたが、まだまだ胎内市にとって不足しているものが非常に多くございします。ご質問にもありましたように、誰にも相談できない人が多いのではないかと、それからアンケートをしても回収率が低いんじゃないかと、一番問題なのは本当に困っている人を把握できてない現状がございします。どうしたらいいかというあたり、例えば引きこもりの方の支援であるとか、様々な取組をやろうというような段階ではございしますけれども、ぜひ本当に皆さんからもですね、この会議終わってから、いつでも結構ですから、こういしたらいいんじゃないのというのを、ぜひお話をご意見やらお話をいただきたいと、こういう風に願っておりますので、何卒ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。私からは以上です。

池田委員長： ありがとうございます。ほか皆様、なにかご意見等はありませんでしょうか。せっかくですので、マイクを回してしまおうかと思いますが、この自立支援協議会に向けて、この会議の内容についてコメントを一言ずつ何かしらいただけたらと思うんですけど、よろしいでしょうか。

宮本委員： 皆さんお疲れ様です。黒川病院の宮本です。今日この基本理念と基本目標というのは、また市のほうで作成してということで、これは案ということで、今日ここで何か意見を言ってくれという話ではなかったんですけど。

事務局： 意見があれば、いただきたい部分はありました。

宮本委員： アンケートの結果であったように、アンケートでも当事者がやっぱり望んでいる方向ですかね。まあ住み慣れた胎内でいろんなサービスを受けたいとか、まあそういうのが盛り込まれたような内容であればいいのかなあというような気がしますね。以上です。

斎藤哲英委員： 支援センターアシストの斎藤と申します。アシストのほうは、協議会全体のところも、あと就労部会のところも関わらせていただいておりますけれども、今年度はコロナもいよいよ明けてきたと

いうところで、障害者雇用のところ、前もお話ししましたがけれどもなかなかやっぱりお仕事できる人材のところには色々課題があるのかなあというところで関係機関の皆様と色々情報交換させていただきましてけれども、そういったところでまあ引き続き部会のほうも参加させていただきながら、協議を重ねていって障害者雇用の数のところ、まあ目標値のところ達成できるようにお手伝いできればなあと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

村山委員： 慈生会の村山です。あの先ほども言いましたんで、いま、にも包括も新潟県ではあまり何でしょうかね、進んでない状況だと思うんですね。ですからやっぱり、胎内市さんがせっかくアンケートを取って、あれだけの結果を出したんだから、その結果を何とかにも包括に生かして、やはり県はなかなか動かないですけど、胎内市さんは動けるんじゃないかなと思います。ぜひともですね、にも包括システムのほうを構築していただいて、障害者の地域生活支援をあのお願いしたいと思います。以上です。

小野委員： 七穂会の小野でございます。4月に高浜が移転しまして、そこで、また利用者の皆さんといいものを作ろうという風にいま思っているところであります。私のほうから2点ほど。1点目は福祉アンケート結果でございますでしょうか、これをさっと見て大体実態はわかるんですけども、我々事業所のほうとしてはもう少し、なんていうんですかね実態とか深い数値というか、この辺を知りたいなあということで、おそらく行政の市だけではなかなか人数も限られてますし、ほかのお仕事も行政の皆さんあると思いますので、私たちが協力しながらですね、連携していく必要があるかなと考えております。市のほうであなたたちやりなさいというのは、市もなかなか容易でないと思いますんで、その辺また、市のほうからこんな風にやってくれとか、そんな声掛けをしてくだされば、私たちが連携してやればいいものができるかなあと。あとまあ、課長さんが言われたように相談する場所がないと、これは非常に大きな問題だと思います。突出してました。これについても、やはり市のほうでなんとかしなさいと、これは市のほうもなかなか大変だと思いますので、その辺のところも、やはり医療系のね大きなその現状を打開する課題だと思いますので、この辺も一緒にできれば、この会を通してですね、できればいいなと思いますので、ほんとにあの私たち使えるところは、市のほうで使っていただければ、できるところはやりたいと思いますので、よろしく申し上げます。以上です。

小菅委員： こばと作業所の小菅です。いまほどの様々な委員の方からのお話がありましたけれども、アンケートの結果だけでなく我々が特にその現場にいる人間で細やかなところの声を一番聞こえてくるところでもありますし、なかなかあの相談する方がいないというようなお話もありましたけれど、そういうようなお話が聞こえてくるようであれば、またあの市の方々にもお耳に入れたり様々

なところでこれからも協力して、より細やかな意見が反映されるような形で、我々も考えていきたいという風に思っております。よろしく願いいたします。以上です。

久保田雅勝委員： 大峰寮の久保田と申します。私の施設は新発田市の施設でございますので、まあ胎内市の色々な足を向けることもありますし、新発田のほうの自立支援協議会にも参加しておりますので、様々な意見が出たりして、まあ食い違うこともかなりあるみたいですので、その辺の中で私どもコロナの中、非常に苦しんでやってきました。まあ胎内市は支援施設がないということで、うちのほうに 10 人、10 何人かな来ておりますけれども、新発田市からは 30 人くらい、計 60 人くらい、いま定員は 68 人ですか、2 人ほど定員を減らして、国の色々要望で減額しなさいということで、いまのところ 2 人。相談支援事業所も実はあるんですけどもいま休止状態で、なぜかというといま本体のほう人が足りなくて、なかなか事業が進まない状況の中で、休みも取れない状況の中でいま職員は頑張っておりますけれども、そういった中で障がい者計画とか色々な面で、支援員というか、うちのほうも頑張っておりますので、皆さんの意見も聞きながら、うちのほうも施設に取り上げて頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

斎藤隆一委員： NPO 法人ふるさと奥山の荘の斎藤といいます。私あの、手をつなぐ育成会の会長も務めているんですけども、その縁でいま、新潟県の育成会の理事もやっております、そっちのほうへもちょこちょこ顔を出しているんですが、実は私、障害のある子どもがいるわけではありません。そんなことで、そういう会議に行って、ちょっと皆さんとの考え方が理解できない、あるいは考え方が食い違うような部分もあるんですけども、そんな中ですね、色々話をしている中で、実は親が子離れできないんだよねというんですね、なかなか子どもが大きくなって 40、50 になってきても、子離れができないと、そんなことで、これからはやっぱり子離れできるというか、子どもさんたちがそれなりに自立、世の中でこう自立した体制が組めるかどうか、またそういう風に組んでいかなければならないだろうと思っておりますけども、そんなことをよく聞きますので、参考までに、お話しさせてもらいました。

金子委員： 健康づくり課の金子と申します。私どものところでは、実際に障害のある方、それからその保護者の方たちですね、それから地域の方々、主に保健師が地域に赴いて、それから各施設に必要な場合には情報提供をしながら、情報共有しながら進めております。また今後も皆様と一緒に色々情報交換させていただいたりしながら進めていきたいと思っておりますので、これからもよろしく願い致します。

梅津委員： こども支援課の梅津と申します。当課のほうでは、保育行政のほう携わらせていただいております、先ほど出た医療的ケア児、こういったお子さんの受け入れについて保育園、こども園のほうでもそういった専門職、看護師等の専門職を揃えなければならない

とか、そういった受入体制の整備もしなければならぬということ、また皆さんのお力を借りながらやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

大平委員： 委員の中では、私、市の身体障害者相談員になってます大平と申しますけども、私 20 何年間、25 年間以上は難病にずっと新潟県の難病支援センター立上げとかいろんなどこに難病に関わってきましたので、それで、あの前回の 30 年の計画に入れるときに、障害者とはなんぞやという中で、あの確か障がい者の位置づけの中で、難病が入ってなかったんですね。総合支援法の中でやっと難病が障がい者の中に入ったという中で、難病というのは長期にわたり社会生活が難しいし、そういうような人たちを難病ですよというような言い方をされてるんですけども、我々の仲間としていろんなどこに新潟市の協議会とか、いろんなどこに新潟県の協議会に行っても我々の仲間が入ってますけども、できたらこの計画の中に難病という言葉を入れていただければ、非常になんか障がい者の一括りの中に入っちゃうと埋もれて何にも出てこないという感じがしますんで、そんなことでぜひ事務局のほうで検討していただければなあと思います。よろしく申し上げます。

中倉委員： 胎内市社協でボランティアセンターを担当している中倉です。先日も施設の方からボランティア活動したいということで紹介してくれませんかとか問い合わせのほうがあったんですけども、いくつか紹介したんですけども、こちらの日程と施設さんのほうの日程が調整つかなくて、せっかくの機会申し訳なかったなあと思っております。今後もボランティア活動につなげていけるようにうまくしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

羽田委員： カレイドスクエアパーク胎内の羽田です。事業としては放課後等デイサービスと就労移行支援のサービスをやらせていただいているんですけども、なんでそういったサービスをしているかというところ、先ほど斎藤さんおっしゃられたように、いま団塊の世代が退職されているとか、して、労働人口がどんどん減って、少子高齢化もどんどん進んでいってというところで、支える側の人間よりも、支えなくちゃいけない人のほうが増えていっているという現状どうしてもあって、それをすごい将来的に見たときにすごい憂いでいて、私も胎内市の人間なので、胎内市どうにかしていきたいなと思っていて、アシストの斎藤さんもおっしゃってくれましたけれども、雇用数ちょっと何とかして増やしていきつつ、雇用された人がちゃんと継続して働き続けられるサポート体制をなんかこう作っていただけたいなと思いますので、まあ私も事業をやっていきますし、部会とかこういった協議会の中でご意見いただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。

服部委員： 放課後等デイサービスの胎内まごころクラブの服部です。先日、赤い羽根募金で地元の方が集金に来られたんですけど、ここ一体何やってるところだねっていう声もあったので、まだなかなか放

課後等デイサービスっていう認知が、まだまだされていないのがあるのかなと思いました。小学生、小学校の子から利用できる施設ではあるのもっともっと認知広めて、こういう会議で皆さんとしっかり連携をとれていけたらなあと思っていますので、よろしくをお願いします。

奥村委員： 胎内市民児協連合会の奥村です。以前、七穂会の先代の桐生先生とお話したことがあるんですが、昔は精神も身体も障がい者となると、人と違ってるといって、本当に家庭の中にしまい込んでしまう、座敷牢風な生活をしてるのを俺は行って、親を説得して、連れてきて、この施設に連れてきてやってるんだと、そうしたら親はまあ非常に喜んでくれて、本人も喜んで、でも昔はそうやって強制的に踏み込んでいって引っ張り出してくることもできたんですけど、いまはやっぱり人権侵害とか守秘義務とかいろんなので縛られてしまって、なかなかそういう人がいるのを知っていてもどうしたらいいかわからないような状況があります。民生委員仲間でも、あそこの人引きこもりなんだよね、でも引きこもりのところに行って、がんばろうとかやってみようなんて言ったらかえって悪いんだよねみたいな、ちょっとこう意識があるもので、どこにつなげてどういう風にそういう人たちを社会の中に連れてこられるかいま考えているところですので、またこれからも関係機関の方々と相談しながら民生委員も頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

皆川委員： 胎内市手をつなぐ育成会の皆川と申します。先ほど会長の斎藤さんからも話ありましたが、私どもは主に知的障がいとか発達障がいの子どもを持つ親の会です。で、手帳の区分でいうと療育手帳を持っているお子さんがほとんどと、なかには身体障がいの重複で手帳を持っておられる方もいらっしゃるんですけども、このアンケートも当事者ですので、私も子どもの気持ちになって親が、子どもが直接答えられればいいんですけど、ほとんど親が子どもの思いを親の思いとしてアンケートを回答したという親御さんが多いと思います。それで、アンケート結果を見ますといつも思うんですけど、手帳の区分ごとに集計していただくと、どういう思いがあるのかを細かくわかることができると思います。そういったことを組み込んでいただいて、いろんな方々のお力をいただいてより良い胎内市になっていただければと思います。よろしくお願い致します。

佐藤副委員長： 胎内市社協の佐藤です。本日は様々な問題等の発言いただきました。本当に様々な問題を抱えながら運営されているんだなと感じておりますけれども、アンケート、非常に多数のアンケートをいただいて、そのなかで問題点等指摘があるわけでありましてけれども、それらを次期計画に反映させて、障害者児、また家族の皆さんが住みやすい胎内市になってもらいたいなという風に感じました。以上です。

池田委員長：

ありがとうございました。すみません、突然にマイクを振りましたけれども、それぞれ皆さんの思いをお聞きできてよかったなと思います。では、以上で本日の議題については、全て終了いたしました。これで、議長の任を降りたいと思います。ありがとうございました。

(4) 閉会

佐藤副委員長